

市史編さんの歩み

【問合せ】
市民図書館歴史資料室 ☎017-776-2435

最初の市史

『青森市沿革史』

『新青森市史』の刊行は、昨年3月をもって完結しました。本市における市史の編さんはこれまでも何度か行っており、その最初は明治42年（一九〇九）刊行の『青森市沿革史』（以下、『沿革史』と略記）になります。

『沿革史』の著者は市役所に置かれた「市史編纂係」となっていますが、編者は序文を執筆した葛西音弥です。彼は元弘前藩士で、藩校稽古館の教師でもありました。そして、明治4年9月、正覚寺に国学・漢字・英語等を教える四教塾を開くなど、教育現場に身を置いた人物です。

さて、『沿革史』は青森市の出発を藩政時代の「青森開港」としています。この理由・背景は葛西が明治39年3月にしたためた『沿革史』の序文からうかがえます。彼は、日露戦争後の日本における青森市の位置付けを、「東北第一の良港」である青森港を中心とし

た国際貿易の拠点となることに求めました。そして、その核となるのがウラジオストックとの貿易であると主張します。そこで『沿革史』は「港町青森」の歴史として筆を起すことになったのだと思います。

実は、この序文が書かれた直後の明治39年4月1日に、青森港は貿易港（特別輸出港）に指定されます。青森港が貿易港を目指すべきという認識は、すでに明治20年代中頃にはあったので、葛西が序文で記したような認識は、当時の青森市（町）の多くの人々と共有できるものであったことでしょう。こうした時代が醸し出す空気を下敷きに編まれたのが『沿革史』だったのです。

戦後に編まれた 『青森市史』

『沿革史』から30年以上を経た昭和27年（一九五二）、『青森市史』の編さんが始まりました。実は、昭和25年の市議会の会議録によれば、昭和23年の

市制50周年記念として戦災前から市史の編さんに着手していたようですが、担当者が亡くなるなど完成には至りませんでした。そして、昭和27年、戦災からの復興を機会として市史の編さんが計画されます。なお、この間に、戦災から5か年の本市の歩みを、青森市政調査会が『青森市戦災復興史』という一冊にまとめています。

この時に編集委員であった看倉弥八は、編さん開始から15年経った昭和43年2月1日付『東奥日報』紙（夕刊）のインタビューで、つぎのようなエピソードを語っています。

そもそも市史編さんのきっかけは、長島小学校の創立80周年の記念誌の編さんにありました。当時の長島小学校の校長が看倉に、ありきたりの学校史ではなく「青森市教育史」にしたいと相談しました。そこで、看倉がこの話を横山實市長にしたところ「いや、そのような事業なら市でやるべきだ」となったのが事の始まりだといえます。昭和29年に刊行となった『青森市史』



昭和20年後半の堤川（出典：『商工名鑑1953』）



明治40年頃の安方棧橋（青森県史編さん資料）



昭和47年の新町通り

第一巻が教育編だったのには、こうした背景があったのです。なお、長島小学校では創立80周年の記念誌を作成し、巻頭では卒業生でもある板画家棟方志功が寄稿しています。

それから、昭和49年まで22年の歳月をかけて本編11巻、別冊3巻、『目で見る青森の歴史』の計15巻を発売して、この時の市史編さんは終了しました。看倉は最終巻の「あとがき」の最後に「心残りのことは青森市の古代編、考古編を編述しなかったことにある」と記しています。

看倉の思いは『新青森市史』編さん事業に引き継がれ、平成18年（二〇〇六）発刊の『新青森市史』資料編1考

古の冒頭で編集委員長の村越潔は、看倉の思いに触れ「氏に代わって肩の荷を降ろしたことを市民とともに喜びたいと思う」と述べています。

『新青森市史』『浪岡町史』 そして「歴史資料室」へ

その後、平成元年に市制90周年を記念して『青森市の歴史—永劫の時に思いをはせて—』が刊行されました。これは、小学校高学年以上の副読本的役割を期待して編まれました。

そして、市制100周年の事業として平成8年度から市史編さん事業が開始となり、平成25年度に『新青森市史』の最終巻が刊行され全16巻が完結しました。また、この間、平成17年に青森市と浪岡町とが合併して新青森市が誕生します。浪岡町では平成7年度から町史の編さんが始まり、平成16年度までに『浪岡町史』全6巻を刊行しました。

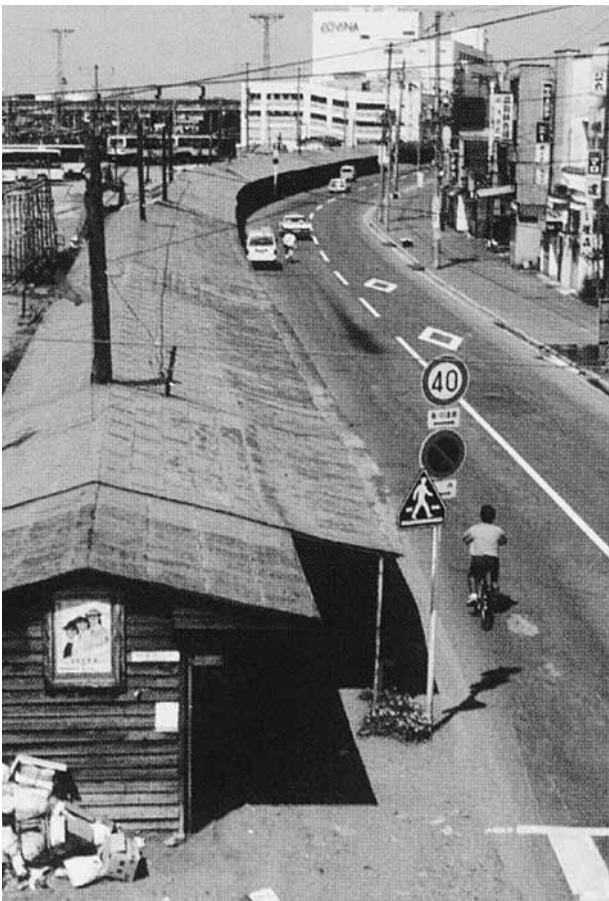
こうして、「平成の市史編さん」は終了しましたが、市史編さんの目的は地域の歴史を「市民共有の財産」として伝え残すことにあり、また収集した資料も「市及び市民の共有財産」として永く後世に伝えるよう配慮する」と青森市史編さん大綱に、うたわられています。そこで、これらを実現するために、今年度から市史編さん室は「市民図書館歴史資料室」として新たにスタート

しました。

ここでは、『新青森市史』『浪岡町史』の成果を活用し、皆さんに本市の歴史を理解していただくための活動はもちろん、問合せの窓口も担います。

また、19年もの長期にわたって収集した膨大な資料についても、準備が整った次第、公開可能なものから順次公開していく予定です。本市の歴史と市民の皆さんをつなぐ「歴史資料室」をよろしく願います。

（敬称略）
（歴史資料室長 工藤大輔）



取り壊し前日（平成元年5月2日）の古川駅前商店街



昭和30年頃の柳町ロータリー